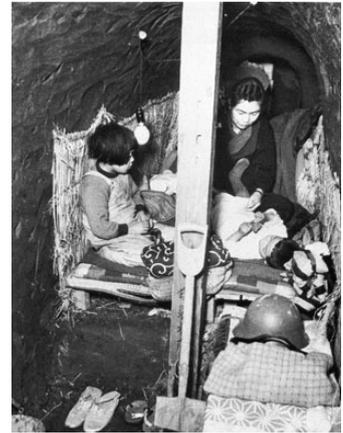


語り伝えたい戦中・戦後の暮らし

昭和館では、常設展示室において十分に表せていない「戦中・戦後の国民生活上の労苦」について、視点を絞った特別企画展を様々なテーマで実施しております。各地より展覧会を開催してほしいという要望があり、このたび特別企画展『語り伝えたい戦中・戦後の暮らし』を、山口市において開催する運びとなりました。

本展では、実物資料を中心に、厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真を通じ、母や子の様々な思いや労苦、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介します。



防空壕の中の母子
昭和20年(1945)
影山光洋撮影

記

【会期】	平成23年10月22日(土)～10月30日(日) 9:30～18:30
【会場】	山口市民会館
【所在地】	山口県山口市中央2丁目5番1号
【入場料】	無料
【主催】	昭和館
【協賛】	日本遺族会第4ブロック(山口県遺族連盟 鳥取県遺族会 島根県遺族連合会 岡山県遺族連盟 広島県遺族会 香川県遺族連合会 徳島県遺族会 愛媛県遺族会 高知県遺族会)
【後援】 (予定)	山口県 山口県教育委員会 山口市 山口市教育委員会 山口新聞社 朝日新聞社 毎日新聞山口支局 読売新聞山口総局 日本経済新聞社山口支局 産経新聞山口支局 中国新聞防長本社 NHK山口放送局 KRY山口放送 tysテレビ山口 yab 山口朝日放送 エフエム山口
【所在地】	〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1
【問い合わせ】	TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575 昭和館学芸部
【ホーム・ページ】	http://www.showakan.go.jp
【昭和館巡回特別企画展とは】	<p>昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を後世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展を開催しております。</p> <p>また、遠方の道府県にお住まいの方々の便宜を考慮し、さらに昭和館の幅広い広報活動の一環として、平成13年より各地において年2回の巡回特別企画展を開催しております。</p>

展示構成

本展では全体を4つのコーナーに分けて紹介します。

「Ⅰ 出征」では、出征する人たちや戦地の家族の無事を祈る人々の様子を紹介します。

「Ⅱ 銃後の暮らし」では、昭和 12 年(1937)に日中戦争が始まり、人々の生活に現れた戦争の影響や、徐々に空襲が激しくなる様子を紹介します。

「Ⅲ 戦争が終わって」では、終戦を迎え、焼け野原から復興に向けて再出発した人々の様子を紹介します。

「Ⅳ 慰霊事業」では、混乱した戦後の労苦を乗り越えた戦没者遺族たちの、戦没者への断ちがたい思いから行われるようになった戦没者慰霊事業の様子を紹介します。

コーナー解説

Ⅰ 家族の別れ

成人男子には兵役が課せられており、社会制度の一端を担っていた。戦争が始まると臨時に招集される人も急増し、出征する家族の無事を願って「千人針」を縫ってもらう光景が多く見られるようになった。

Ⅱ 戦中の暮らし

昭和 12 年(1937)に日中戦争が始まると、長期戦を支えるために戦争に協力する体制が整えられ、やがては食料品や生活必需品の配給制度の導入や、金属回収が実施されるようになった。

子どもたちも影響を受け、昭和 16 年(1941)に尋常小学校は国民学校と改称された。昭和 18 年からは不足する労働力を補うため、中学生以上の生徒に対する勤労働員も本格化する。また昭和 19 年には、空襲の危険を避けるために学童疎開も実施された。そして、同年末から本格化した空襲によって、多くの都市が被害を受けた。

1. さまざまな統制
2. 戦中の子どもたち
3. 空襲、そして終戦



ポスター「貴重な資源をお役に立てませう」



疎開先での授業風景
長野県浅間温泉に疎開していた代沢国民学校(現・世田谷区立代沢小学校)の学童
昭和 19 年(1944)9 月

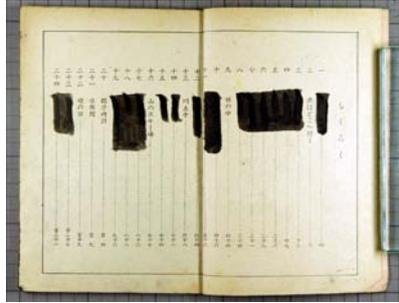
防空服装

Ⅲ 戦争が終わって

昭和20年(1945)8月15日正午、「玉音放送」により戦争の終結が国民に知らされた。配給は滞り、食料などは非合法の闇市や買い出しによって手に入れざるを得なかった。戦争が終わると戦没者遺族に対する想いは一変し、翌年2月には恩給が停止されるなど、遺族を取り巻く環境も厳しいものとなっていた。

町には肉親を失った戦災孤児たちの姿が見られ、墨塗り教科書を使った授業が行われるなど、子どもたちの世界も混乱していた。やがて世の中は落ち着きを取り戻し、復興は進んでいった。

1. 廃墟からの出発
2. 遺された家族
3. 戦後の子どもたち
4. 復興に向けて

		
<p>復員した兵士 昭和23年(1948)5月 米国立公文書館提供</p>	<p>墨塗り教科書</p>	<p>子守をする少年 昭和22～27年(1947～52)頃 マッカーサー記念館提供</p>

Ⅳ 慰霊の旅

戦没者の遺族たちが、混乱した戦後の労苦を乗り越え、平和への願いを込めて臨んだ戦没者慰霊事業の様子を紹介する。

1. 遺骨収容
2. 慰霊巡拝


<p>飯盒 パラオ諸島ペリリュー島・水府山にて収集された遺留品。銃弾が貫通した跡が残る。</p>

検索・体験コーナー

会場内には展示の他にも以下の各種コーナーを設置しています。

・「^{せんしそしよ}戦史叢書／陸軍・海軍部隊略歴」検索・閲覧コーナー

東京の昭和館では、5階の映像・音響室において『戦史叢書』と『部隊略歴』を電子化し、検索端末にて情報の提供を行っておりますが、巡回特別企画展向けに端末を設置し、本館と同様の検索・閲覧を行うことができるようになりました。なお、戦史叢書は各地の図書館に所蔵されていますが、パソコン上で検索可能なシステムは当館独自のものです。

※ 戦史叢書とは、防衛研究所戦史室が編纂し、朝雲新聞社より出版された公刊戦史(全 102 巻)です。

※ 陸軍・海軍部隊略歴は、海軍省および厚生省援護局の各資料をもとに作成した陸海軍部隊の編成から行動の経歴を記しています。

・「和男君の防空探検」

昭和 17 年(1942)に刊行された『防空絵とき』を題材として、パソコンを使って、防空の道具や工夫についてゲーム感覚で紹介します。

・「着てみよう」

国民服や防空頭巾など、戦中・戦後の衣服を着たり帽子をかぶることができます。



・「映像コーナー」

戦中・戦後の生活を経験した方々の証言をまとめた「昭和館オーラルヒストリー」の他、昭和館が所蔵するニュース映画のなかから、開催地に関する番組をご覧いただくことができます。